特集

日本遺産

薩摩の武士が生きた町

～武家屋敷群「麓（ふもと）」を歩く～

勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地、鹿児島には、藩主島津氏の居城である鶴丸城跡や「麓（ふもと）」と呼ばれる武家屋敷群が数多く残っています。

今年5月、これらの武家屋敷群を中心とした文化財が、県内で初めて文化庁の「日本遺産」に認定されました。これを記念し、今回は各地に点在する麓の魅力などをご紹介します。

鶴丸城跡や各地の麓を歩けば、薩摩の武士たちの往時の生き様が見えてきます。

のどかで風情がある石畳の武家屋敷通り（蒲生麓）

❖薩摩の武士が生きた町「麓」

～城をもって守りとせず　人をもって守りとなす～

薩摩藩は他藩より武士の割合が高く、人口の約4分の1を占めていました。このため、薩摩藩は「外城（とじょう）制度」という独自の制度を築き、本城である鶴丸城の城下だけでなく、各地の山城の周辺に約120カ所もの「麓」（武家屋敷群）を作って武士を配置していました。

麓は防御に適した場所に多く作られ、そこで武士たちは農耕に従事しながら心身を鍛え、武芸の鍛錬に励みました。

今回、日本遺産に認定されたのは、外城制度の中心となる鶴丸城と、代表的な11カ所の麓に関連する文化財です。

鹿児島県内に残る主な武家屋敷群「麓」
各麓については、6～9ページをご覧ください。

日本遺産について

２０２０年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、特に海外から多くの観光客が日本を訪れることが予想されています。日本遺産は、それらの観光客を地方に呼び込む受け皿づくりとして2015年から始まった制度です。地域にある日本独特の歴史や文化をテーマでまとめ、日本遺産として文化庁が認定することで、環境整備や情報発信の取り組みを後押ししています。今回、鹿児島は「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群『麓』を歩く～」として認定されました。今後、周遊ルートづくりやガイド育成などを通して、誘客促進や地域活性化に取り組んでいきます。

JAPAN HERITAGE
日本遺産
▲日本遺産ロゴマーク

※全国の日本遺産の数 83件（2019年5月時点）

武家屋敷群をめぐる

風格ある佇まいの石垣や武家門、美しい庭園など
昔の情景が残る武家屋敷群を訪ねてみよう

端正に手入れされた庭園

独自の形をした知覧型二ツ家

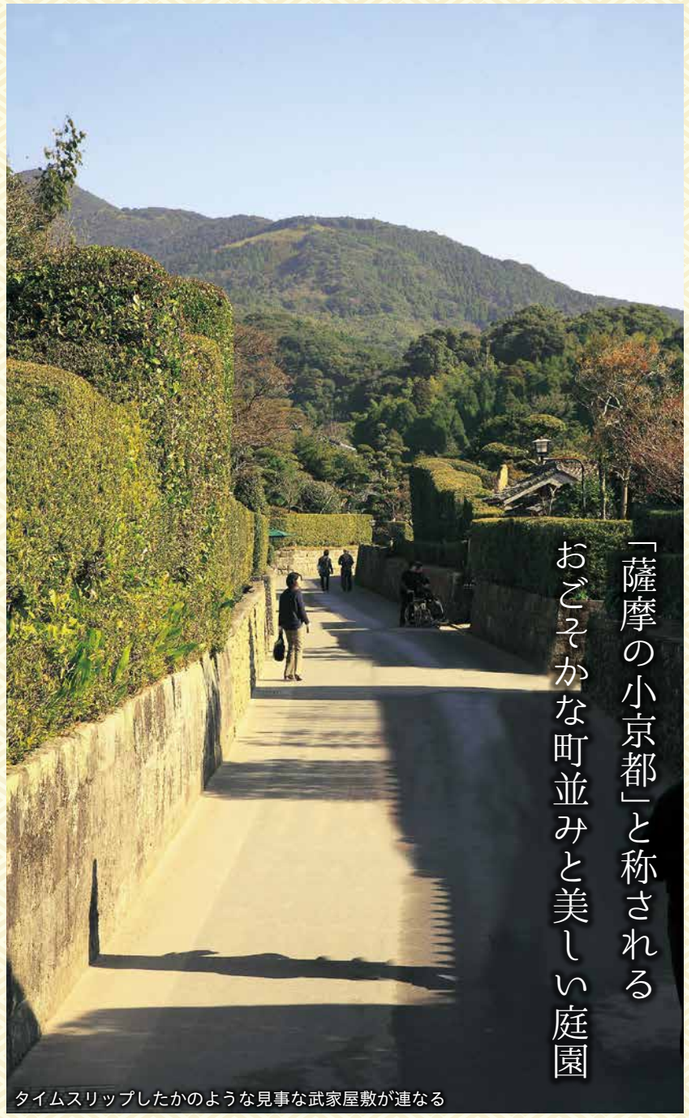
南九州市 知覧麓

知覧麓は、領主の御仮屋（おかりや）を中心に、石垣と生垣による整然とした地割りがなされ、その背後には母ヶ岳（ははがだけ）の山並みを望むことができます。その美しい景観から、「薩摩の小京都」と言われます。

地区内にある７つの庭園は、琉球や中国の影響を受けた優れたデザインで、国の名勝に指定された庭園として公開されています。

そのほかにも、知覧特有の、上空から見るとＬ字型をした古い武家屋敷を利用して、お茶どころである知覧のお茶や、鹿児島の郷土料理を提供する食事処もあります。

南九州市文化財課（ミュージアム知覧）
☎ 0993-83-4433


「薩摩の小京都」と称される
おごそかな町並みと美しい庭園
タイムスリップしたかのような見事な武家屋敷が連なる

薩摩武士の心意気が息づく
薩摩藩最大の麓
庭や室内が一般公開されている築約 150 年の竹添邸

出水市 出水麓

薩摩藩の北部、肥後藩と接する出水は、重要な軍事拠点として薩摩藩で最も規模が大きい麓が形成されました。現在も碁盤の目状の整然と区切られた町並みが残されており、威風堂々とした武家屋敷群が並んでいます。

歴史を学ぶことができる「出水麓歴史館」があるほか、公開武家屋敷「竹添邸」、「税所邸」など、築約150年の屋敷を見学・散策できます。また、甲冑（かっちゅう）や着物の着付け体験をはじめ、牛車に乗って武家屋敷群内をまわる観光牛車体験など、さまざまな体験を楽しむことができます。

出水市文化財課
☎ 0996-63-2108

武家屋敷群内をめぐる牛車体験

四季によって異なる表情を見せる町並み

喜入を治めてきた肝付家の墓地

エメラルドグリーンの香梅ケ渕（こべがふち）

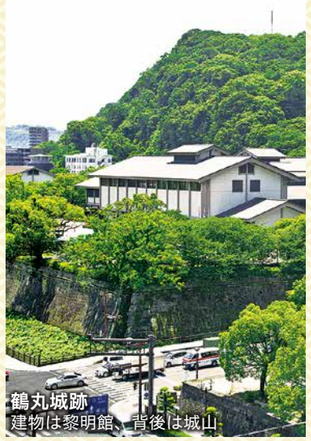
存在感のある牧瀬家の武家門

鹿児島市 喜入旧麓（もとふもと）

喜入旧麓は、12世紀末頃に築かれた給黎城（きいれ）を中心に発展した麓です。1653年に居館が現在の喜入小学校の敷地に移るまで、約450年間にわたり政治の中心として栄えました。

麓は石垣に面した水路や武家門のほか、南方（みなみかた）神社や幕末薩摩を牽引した家老 小松帯刀（こまつたてわき）の父にあたる肝付兼善の墓地を含む肝付家歴代墓地もあり、当時をしのぶことができる文化財が残されています。

鹿児島市文化財課　☎ 099-227-1962


鶴丸城跡
建物は黎明館、背後は城山

正門の御楼門（ごろうもん）建設地

鯉の泳ぐ清流溝

鹿児島市 鶴丸城跡

鶴丸城は、1601年頃、後の島津家初代藩主となる家久が建設した島津氏の居城で、背後の城山と麓の居館からなります。薩摩藩77万石の本城として、外城（とじょう）制度の中心を担いました。

当時の城の建物は残っていませんが、立派な石垣と水堀が残されており、敷地内には鹿児島の歴史を紹介する歴史資料センター黎明館もあります。現在、1873年に焼失した正面中央の御楼門（ごろうもん）を再建するための工事が進んでおり、2020年3月にお披露目される予定です。

鹿児島市文化財課
☎ 099-227-1962

石高50石以上の武家に許された屋根が3段構えの門

まちのシンボルでもある大クス

姶良市 蒲生麓

蒲生麓は武家門が多く残されているのが特徴です。石高10石以上の家にのみ武家門の建設が許され、さらに石高に応じて屋根の形が決められていました。また、切石積みの石垣が多数を占めるのも特徴の一つです。

武士達の信仰の対象であった大クスや、下級武士が行った和紙作り、勇壮な太鼓踊りなど、武士にまつわる信仰や文化の痕跡も多く残されています。

姶良市社会教育課
☎ 0995-62-2111

垂水市 垂水麓

垂水麓は、垂水島津家の屋敷であった林之城跡（現 垂水小学校）を中心に、当時の麓の町割りや地名が残されています。

垂水小学校の正門横にある城の一部分であった長屋や、麓の武家門、垂水島津家の菩提寺の一部であった墓所のほか、武士が生活を支えるために内職で作ったという垂水人形なども現在に受け継がれています。

垂水市社会教育課　☎0994-32-7551

主な柱や梁、石垣は
建築当時のものが残る長屋

麓でまちおこしに取り組む方の声

昨年、生まれ育った志布志麓で、訪れた方が休憩できる場所を作ろうと「ウラカフェ」をオープンしました。本業は美容師ですが「景観を守りたい、地域活性化に役立ちたい」と、空き家だった古民家を美容室のスタッフと丁寧に掃除や草取りをして作ったカフェです。

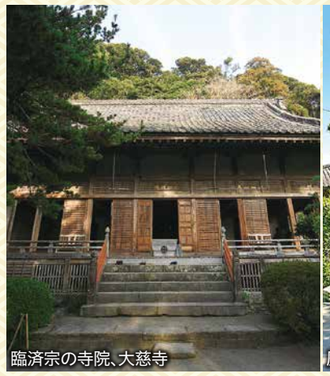
地元の方の応援や、カフェをきっかけに麓の魅力に気付いたという観光客の声が大きな力になっています。日本遺産認定は、観光の大きな切り札。多くの方に訪れてもらえるよう、取り組みを進めたいです。

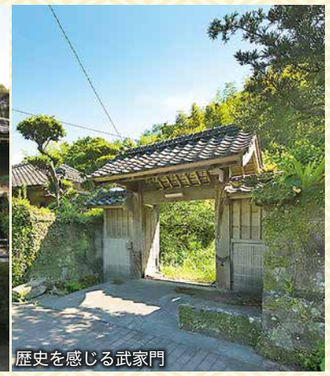
ウラカフェ
代表 岡田琢也さん

美容師のセンスが光る店内

【 住　所 】志布志市志布志町帖4371
【営業時間】11:30～16:00　☎ 099-401-5430

◆問い合わせ先 県庁文化財課 099-286-5357


臨済宗の寺院、大慈寺


歴史を感じる武家門

志布志市 志布志麓

交易の拠点 志布志港を中心に、奈良時代創建の宝満寺や室町時代に建立された大慈寺など古くから文化が栄えた志布志。中世には戦闘時の砦の役割をもつ4つの山城がありました。城の直下にある谷筋にそって、帯状に集落が広がるのが特徴で、見事な庭園や多くの湧水も志布志麓の特質を表わしています。

志布志市生涯学習課
☎ 099-472-1111

島津家中興の祖、島津忠良をまつる竹田神社周辺に広がる武家屋敷群

南さつま市 加世田麓

島津氏の直轄地、加世田郷の中心地であった麓には、当時二百数十軒の武家屋敷が並んでいたと言われています。屋敷の横には水路が流れており、水路にかかる石橋とその先にある武家門、手入れの行き届いた濃い緑のイヌマキ並木が加世田麓の特徴です。

かつて武士たちが上演していた、水路の水を動力源に人形を動かす水車からくりは、現在も竹田神社の夏祭りで公開されています。

南さつま市生涯学習課
☎ 0993-76-1810

いちき串木野市 串木野麓

戦国時代末期の猛将として知られる島津家久が治めていた、串木野城を中心とする麓です。現在、麓の区画はほとんど残されていませんが、串木野城の裾にある、幕末期の武家屋敷旧入来邸は、石垣・武家門・イヌマキなどの古木などがまとまって残されており、隣接する南方（みなみかた）神社とともに往時をしのばせる景観が凝縮されています。

いちき串木野市社会教育課　☎ 0996-21-5128

江戸時代に植えられたとされる古木などが残る旧入来邸

入来麓の代表的景観である茅葺門

薩摩川内市 入来麓

入来麓は、鎌倉時代にこの地の地頭であった関東の渋谷氏が、「入来院」と名乗って支配した荘園が発祥です。特徴は樋脇川の石を使用した玉石垣とその石垣の上に植えられた茶やイヌマキなどの生垣で、立派な茅葺（かやぶき）の武家門も見られます。

民家を活用して作られた入来麓観光案内所では、特産のきんかんを使ったお土産品の販売や、本格的な甲冑（かっちゅう）の着付けなど、各種体験プログラムも行っています。

薩摩川内市文化課
☎ 0996-23-5111

薩摩川内市甑島 里麓・手打麓

外国船を監視するため、薩摩藩は本土だけでなく離島にも外城（とじょう）を置いていました。甑島の武家屋敷は浜のすぐ近くにあるのが特徴で、屋敷周辺がきれいな玉石垣で囲まれています。里・手打の両地区では、戦への出陣や凱旋を表現した武士踊が伝承されており、今なお、地域の行事や式典などで奉納されています。

薩摩川内市文化課　☎ 0996-23-5111

武士踊
大きい玉石を組んだ石垣